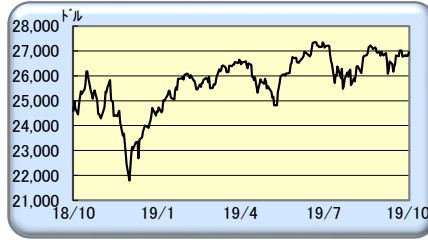


1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2018/12/31	2019/9/30	2019/10/25	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	20,014.77	21,755.84	22,799.81	24,448.07	2018/10/2	16,111.81	2016/11/9
NYダウ	ドル	23,327.46	26,916.83	26,958.06	27,398.68	2019/7/16	17,883.56	2016/11/4
円/ドル	円	109.69	108.08	108.67	118.66	2016/12/15	101.20	2016/11/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～米中貿易問題の進展期待や本邦企業の決算本格化を前に業績底入れ期待が高まり、上昇～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+307.13円(+1.37%)、TOPIXが+26.45ポイント(+1.63%)となり、米中貿易問題の進展期待や本邦企業の決算本格化を前に業績底入れ期待が高まり、上昇しました。業種別(東証33業種)でみると、非鉄金属、医薬品、鉱業、建設業などの29業種が上昇する一方、繊維製品、その他製品などの4業種が下落しました。週初の21日は、今週中旬から始まる主要企業の7-8月決算を前に業績底入れ期待が高まったことなどから、上昇して始まりまして。祝日明けの23日は、①21日にクドロー米国家経済会議委員長が「米中貿易協議が進展すれば、12月に予定する対中追加関税発動を取りやめる可能性がある」と発言したこと、②22日に中国が米産大豆に対して1,000万トンの無関税枠を設定したことなどから、米中貿易協議に対する期待が高まり続伸しました。24日は、前日の米キャタピラーの決算で中国向け販売の底入れが示唆されたことなどから、国内株企業においても中国関連とされる銘柄中心に上昇しました。週末の25日は、業績拡大期待から医薬品株や半導体関連銘柄が買われ、日経平均は約1年ぶりの高値で引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
10月28日	Mon	中国	共産党4中総会(31日まで)	
10月29日	Tue	米国	FOMC(米連邦公開市場委員会)(30日まで) 消費者信頼感指数	10月 125.1
10月30日	Wed	日本	日本銀行、政策委員会・金融政策決定会合(31日まで)	
10月31日	Thu	米国	GDP(国内総生産)速報値(年率/前期比)	7-9月期 2.0%
		日本	鉱工業生産(前月比)	9月 ▲1.2%
		中国	製造業PMI(購買担当者景気指数)	10月 49.8
		国際	非製造業PMI	10月 53.7
11月1日	Fri	ASEAN(東南アジア諸国連合)首脳会議(バンコク、11月4日まで)	7-9月期 0.2%	
		欧州	ユーロ圏GDP速報値(前期比)	9月 2.2%
		日本	失業率	9月 2.9%
		米国	失業率 ISM製造業景況指数	10月 3.5% 10月 47.8
決算発表予定 他	日本	決算発表 :	10/28 オリックス、キヤン、ファナック、日立建機、東電HD、JR東海、関西電 10/29 オムロン、協和キリン、大ガス、富士通、NEC、野村HD、ANAHD、トヨタ 10/30 オリエンタル、ユニ、ヒューリック、三井物産、住友化学、塩野義薬、日本取引所、日立、花王、LINE、SBI 10/31 キーエンス、コシロ、ユニー、ハナソニック、ヤマハHD、三菱重、京セラ、太陽日酸、JT、JAL、村田製、東レ、武田薬、豊田織、TOTO、ZOZO 11/1 NTTデータ、シャープ、リコー、三菱ケミ、伊藤忠、KDDI	
	海外	決算発表 :	10/28 AT&T、アルファベット、HSBCHD 10/29 ファイザー、マスターカード、GM、メルク、AMD 10/30 GE、FB、スターバックス、アップル、フォルクスワーゲン、ドイツ銀行、エアバス 10/31 フリストル、フィアットクライスラー、ロイヤル・タッチ・シエル、BNPパリバ 11/1 AIG、エクソンモービル、アマゾン	

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～米中貿易協議の進展や円高ドル安圧力の後退などを背景とした業績底入れ期待から、堅調な展開～

今週の日本株市場は、国内主要企業の決算発表が本格化する中、①米中貿易協議の不透明感等を背景に先延ばしされていたとみられる中国共産党4中総会が28~31日にかけて開催されるなど、中国においても米中貿易協議にある程度目途がたった様子が伺えること、②29~30日にかけて開催されるFOMCでは市場予想通り0.25%の利下げが決定され、引き続き状況次第で予防的な利下げを行うスタンスに変わりないことが示されるとみていること、③米国主要企業の決算発表が続く中、業績下方修正の動きが後退していること、④円高ドル安圧力が後退していることなどを背景に、業績底入れ期待が続くとみていることから、堅調な展開を予想します。

その他の注目材料として、日本では30日~31日にかけて開催される日本銀行の金融政策決定会合、31日の鉱工業生産や1日の失業率、米国では29日の消費者信頼感指数や30日のGDP、1日の雇用統計やISM製造業景況指数、欧州では31日のユーロ圏GDP、中国では28日から始まる共産党4中総会、31日の製造業PMIや非製造業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.

URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)、が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。